

扉を開く

外国人材育成 八戸学院の挑戦

Ⓜ

「ベスト・オブ・ザ・ベストの学生を探している。興味ある人は手を挙げて」

フィリピン・アンヘレス市の「ホーリーエンジェル大学」。八戸市の学校法人光星学院の関連会社「八戸学院グループ」(HGG)が始めた奨学金の説明を受け、ITを学ぶ大学生が次々と手を挙げた。

奨学金は、面接を経てフィリピンの人材の採用を決めた

日本企業が奨学金

日本の事業者が、日本語訓練費用や渡航費などを負担する仕組み。会員制で、入会には一定の基準を設けている。

いち早く手を挙げた同大のジョン・アントニー・ラフンさん(20)は「日本の技術はトップレベル。日本で働くのが夢」という。同じくエイプリル・ジョイ・アラソさん(20)は「海外で自分を試したい。奨学金は助けになる」と目を輝かせた。

HGGは、光星学院などがフィリピンで運営する「八戸学院カテドラル校」の開校に先行し、同国の人材を育成して日本の事業者を紹介する事業に着手した。業種は当面、ITと介護。IT分野の第1陣は、来春にも来日して就労する。

優秀な学生、獲得競争

介護分野でも同事業が始動しているが、実際の就労は約2年半後となる計画。日本語の訓練を積んだ後、光星学院の八戸学院大学短期大学部介護福祉学科(2019年度新設予定)に留学して介護福祉士の国家資格を取得し、新設された更新可能な在留資格「介護」での就労を目指すことになる。

フィリピンは英語が公用語で、雇用の場が世界中にある。奨学金により、渡航費などの経済的負担から日本での就労を諦めていた人に門戸を広げ、優秀な人材の早期確保を目指す。

IT分野ではさらに、八戸学院カテドラル校で、日本企業によるプログラミング教育を取り入れる。将来的に同校近隣で日本からIT企業の誘致・集積を進める構想もあり、生徒たちが日本に興味を持つような環境をつくる方針だ。



日本での就労に向けた奨学金の説明を聞く学生たち＝6月14日、フィリピンのホーリーエンジェル大学

が目的の「外国人技能実習制度」は利用しない。人材育成・就労支援を手厚くする背景には、国際的な人材獲得競争があるとい

フィリピンで実務を担当する光星学院国際教育局国際教育センターの井坂浩章フィリピンセンター長(CNEIグループ共同代表)は「より良い条件を提示する国に人材を奪われないためには、日本のファンになってもらうしかない」と指摘する。

(新村菜穂)